

専門分野 I

【科目】看護学概論	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】山中真弓	【開講時期】第1学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】教育主事	【実務経験】看護師8年、厚生労働技官3年	

【授業における到達目標】

看護をとらえる様々な視点を学び、看護に対する自らの考えを述べることができる。

看護をとらえる視点は、①「人間」「健康」「環境」「生活」などの看護を定義する構成要素 ②保健統計 ③保健師助産師看護師法と関連法 ④看護倫理 ⑤看護理論家の考え ⑥多職種との連携 ⑦看護の歴史

【授業の概要】

①「人間」「健康」「環境」「生活」などの看護を定義する構成要素 ②保健統計 ③保健師助産師看護師法と関連法 ④看護倫理 ⑤看護理論家の考え ⑥他職種との連携 ⑦看護の歴史 の視点について、講義やグループワーク、全体討議を行い、自らの考えを述べる機会が多い授業である。

【アクティブ・ラーニング】

- ・事例を用いたグループワークを行い、全体発表・検討会を行う。
- ・授業においては、自らの考えを発言する機会が多くする。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第1回	看護を定義する構成要素を理解する 「環境」とは 「人間」とは	
第2回	看護を定義する構成要素を理解する 「健康」とは 「生活」とは	
第3回	看護ケアとは 看護の感性、看護の質保証	
第4回	保健統計からみる健康や看護	
第5回	看護理論家の考え ナイチンゲール	
第6回	看護理論家の考え ヘンダーソン	
第7回	看護理論家の考え	

	ロイ	
第8回	看護倫理について理解できる(グループワーク) 人間関係に必要な倫理についてこれまでの経験から自らの考えを明確にし、それを基盤に看護倫理について理解する	
第9回	看護者の倫理綱領について理解する	
第10回	保健師助産師看護師法の制定過程と法の解釈	
第11回	人材確保法の制定過程と法の解釈	
第12回	他職種の役割と機能を知り、連携の必要性について理解する	
第13回	看護の歴史	
第14回	「看護」について考える(グループワーク・全体発表) テーマ:看護であること看護でないこと	
第15回	「看護」について考える(グループワーク・全体発表) テーマ:看護であること看護でないこと	

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

新体系看護学全書 基礎看護学1 看護学概論 メヂカルフレンド

看護学テキストシリーズ NiCE 看護倫理 南江堂

【参考文献】

国民衛生の動向

【授業外における学修方法及び時間】

今回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

専門分野 I

【科目】 看護理論	【単位数・時間】 2 単位 (30 時間)	
【担当講師】 間宮 みどり	【開講時期】 第 1 学期	【配当年次】 2 年

【授業における到達目標】

1. 看護と看護理論の関連を説明できる。
2. 各看護理論について説明できる。
3. 自己の看護のエピソードを記述し、理論を用いて意味づけすることができる。

【授業の概要】

看護や看護理論とは何かを探求し、自己の生活や看護体験と関連づけ、看護理論を実践に活かす意味を明らかにすることを学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義、課題については自ら思考する機会とする。
- ・自らの生活体験や実習での経験を振り返り、理論を用いて看護を意味づけし、他者と共有することで自己の看護観を深める機会とする。

【授業計画】

回数	内容 (方法)	備考
第 1 回	科学的な看護実践における看護理論 看護理論の分類 看護理論の変遷 自己の看護体験を振り返る	
第 2 回	ニード論について ：ウィーデンバック	
第 3 回	患者のニードについて考える ：ウィーデンバック	プロセスレコードにおいて患者との関わりを再構成する
第 4 回	患者のニードについて考える ：ウィーデンバック	
第 5 回	人間関係論について ：ペプロウ、トラベルビー	
第 6 回	患者との人間関係について考える ：ペプロウ、トラベルビー	
第 7 回	セルフケアについて ：オレム	
第 8 回	患者のセルフケアについて考える ：オレム	
第 9 回	ケアリングについて ：ベナー、ワトソン	
第 10 回	患者とのケアリング関係について考える ：ベナー、ワトソン	
第 11 回	中範囲理論について ：危機理論、健康信念モデル	
第 12 回	中範囲理論について	

回数	内容（方法）	備考
	: 自己効力感、エンパワーメント	
第 13 回	中範囲理論について : 成人教育（アンドラゴジー）、リフレクション	
第 14 回	中範囲理論に基づいて看護実践事例の検討	
第 15 回	発表・まとめ	

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験 50%（50 点）

小テスト・課題レポート 50%（50 点）

【テキスト】

看護理論 20 の理解と実践への応用（南江堂）

看護実践に活かす中範囲理論 第 2 版（メジカルフレンド社）

看護覚え書（日本看護協会）

看護の基本となるもの（日本看護協会）

【参考文献】

やさしく学ぶ看護理論 日総研

超入門 事例で学ぶ看護理論 学研

ペプロー 人間関係の看護論 医学書院

ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学 医学書院

ベナー 看護論 新訳版 医学書院

セルフケア概念と看護実践 へるす出版 他

【授業外における学修方法及び時間】

15 時間の自己学習時間は文献検討、グループでのディスカッション、資料の作成等の時間とする。

専門分野 I

【科目】看護研究	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】山中 真弓	【開講時期】通年	【配当年次】2年
【所属・職位】教育主事	【実務経験】看護師8年、厚生労働技官3年	

【授業における到達目標】

看護研究の意義と研究方法を理解し、実際に看護研究に取り組むことができる。

【授業の概要】

1. 看護研究の意義が理解できる。
2. 研究に取り組み、研究計画書の作成、データ収集、論文作成、研究発表ができる。

【アクティブ・ラーニング】

研究テーマが同じメンバーとともに看護研究に取り組む。

【授業計画】

回数	内容・方法	演習
第1回	看護研究とは 研究疑問の導き	エピソード分析
第2回	研究疑問の焦点化	エピソード分析
第3回	看護研究のプロセス 研究疑問の焦点化 文献検索	文献検索
第4回	クリティークとは	クリティーク 研究テーマの絞り込み
第5回	研究の種類と方法	
第6回	研究の種類と方法 研究における倫理的配慮	
第7回	データ分析方法 統計処理	統計処理
第8回	データ分析方法 質的データ	質的データの分析
第9回	研究計画書作成	研究計画書作成
第10回	考察 論文作成	

第 11 回	研究発表について	
第 12 回		研究活動
第 13 回		研究活動
第 14 回	研究発表	
第 15 回	研究発表	

【試験・課題等の内容】

研究テーマに従いグループを編成する。各グループに指導教員が指導を担当する。
指導教員から指導を得ながら、それぞれ研究活動を行う。

【評価方法】

評価表(ルーブリック評価)に基づく研究活動に対する評価 60%
課題レポート 40%

【テキスト】

黒田裕子の看護研究 Step by Step 医学書院

【参考文献】

新 楽しい統計学 ヘリシティ出版
看護における研究 日本看護協会出版会

【授業外における学修方法及び時間】

15 時間の自己学習時間は研究活動の時間である。

専門分野 I

【科目】看護技術 I (看護技術の概念、環境、活動・体位・休息)

【単位数・時間】1 単位(30 時間)

【担当講師】山中真弓¹⁾、

高野千絵²⁾、三島有里恵³⁾、尾前りさ⁴⁾、間宮みどり⁵⁾、

中神雪絵⁶⁾、村上友唯⁷⁾

【開講時期】第 1 学期 【配当年次】1 年

【所属・職位等】1) 教育主事 (看護師 8 年、厚生労働技官 3 年)

2) 専任教員 (看護師 8 年)

3) 4) 6) 7) 看護師

5) 専任教員 (看護師 12 年)

【授業における到達目標】

- ・看護援助を行う際の基本的な考え方を理解するとともに、看護技術の習得・発展のための学習方法を理解する
- ・人の安全・安楽を守り、自然治癒力を最大限引き出すための環境の意義とそのニーズを満たすための援助方法について理解する
- ・生活するうえで欠かせない、活動・睡眠・休息の意義を理解し、そのニーズを満たすための援助ができる

【授業の概要】

- ・看護技術の概念について基本的な考え方を学ぶ
- ・環境についての講義とベッドメイキング、臥床患者のリネン交換の演習を行う授業である。演習後には技術のチェックを行い技術の習得を行う
- ・活動においては、自らの身体を動かしながら演習を中心とした授業を行う。休息と睡眠においては自己の生活を振り返りながら学びを深められるように行う。演習後には、技術のチェックを行う

【アクティブ・ラーニング】

- ・学生が積極的に講義に参加し自己の発言を述べる
- ・事例を用いた演習を行い、グループワークを通して意見交換を行い看護の方法を深める
- ・演習時は事前課題をもとに実践し、グループで振り返りを行う。事前課題をもとに意見交換をしながら学びを深める

【授業計画】

回数	内容（方法）	担当
第1回	看護技術の概念	山中
第2回	環境の意義 療養生活の環境	高野
第3回	病室環境のアセスメントと調整	高野
第4回	ベッド周囲の環境整備	高野
第5回	病床を整える援助	高野
第6回	ベッドメイキングリネン交換、環境整備	
第7回	臥床患者のリネン交換の援助（演習）	高野、三島、尾前
第8回	技術チェック「ベッドメイキング」	高野、三島、尾前
第9回	活動の意義、種類	間宮
第10回	姿勢と体位	間宮
第11回	安楽な体位の保持と体位変換、ボディメカニクス	間宮
第12回	休息と睡眠	間宮
第13回	安楽、レクリエーションの意義、廃用症候群の予防	間宮
第14回	体位変換、移動・移送援助（演習）	間宮、中神、村上
第15回	車いすへの移乗・移動（演習）	間宮、中神、村上

【試験・課題等の内容】

<看護技術の概念>なし

<環境><活動・体位・休息>

演習の前には事例患者に対する看護について各自で事前課題を行い望む

【評価方法】

<看護技術の概念>なし

<環境>終了試験 50点 技術チェック「ベッドメイキング」

<活動・体位・休息>終了試験 50点 技術チェック「車いすへの移乗・移動」

【テキスト】

<看護技術の概念>

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

<環境><活動・体位・休息>

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

【参考文献】

<看護技術の概念>

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院

<環境>

看護の基本となるもの 日本看護協会出版会

<活動・体位・休息>

からだの地図帳 新版 講談社

【授業外における学修方法及び時間】

授業前に事前テキストにて事前学習を行い、授業後には振り返りを行う。

演習後には技術練習を行う

専門分野 I

【科目】看護技術Ⅱ（清潔・衣生活）	【単位数・時間】1 単位（30 時間）
【担当講師】①小倉 裕香 ②中神 雪絵 ③上玉利 奈津江	【開講時期】第 1 学期
【配当年次】1 年	【所属・職位等】①専任教員（看護師 6 年） ②③看護師

【授業における到達目標】

1. 生活する上で欠かすことのできない日常生活行動（清潔・衣生活）のニーズを満たすための援助の方法を学ぶ。
2. 清潔の意義を理解し、清潔・衣生活の援助の目的、方法について理解する。

【授業の概要】

清潔の意義とその援助の目的を理解し、清潔・衣生活行動のニーズを満たすための援助を考える基礎的知識を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義、課題については自ら思考する機会とする。
- ・演習では、講義で学んだことをもとに視聴覚教材で学習し、根拠に基づいた具体的な方法を理解する。
- ・看護技術の習得に向けて、学生同士で学び合い、事例に応じた看護技術の方法を習得する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	担当
第 1 回	清潔の意義	教員
第 2 回	清潔に影響を及ぼす因子 援助方法の種類	教員
第 3 回	整容の意義とその援助	教員
第 4 回	口腔ケアの意義とその援助	教員
第 5・6 回	衣服を用いることの意義と選択 病衣・寝衣交換の援助	教員
第 7・8 回	頭髮を清潔に保つための援助 ・目的 ・洗髪の種類 ・洗髪の方法	教員・院内非常勤講師 ・教務助手
第 9・10 回	皮膚を清潔に保つための援助 ・目的 ・清拭の種類 ・清拭の方法	教員・院内非常勤講師 ・教務助手
第 11 回	部分浴・陰部洗浄の目的とその援助	教員
第 12・13 回	患者の状態に合わせた清潔の援助の判断	教員
第 14 回	洗髪の実践チェック	教員・院内非常勤講師 ・教務助手
第 15 回	清拭の実践チェック	教員・院内非常勤講師 ・教務助手

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。
終了試験は授業で教授した内容から出題する。
グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験 100% (100 点)
※洗髪技術、全身清拭・寝衣交換の技術については全ての講義、演習が終了後に行う。
技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。
技術チェックの合格をもって単位認定とする。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院
基礎臨床看護技術 医学書院 第3版 学研メディカル秀潤社
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

【参考文献】**【授業外における学修方法及び時間】**

15時間の自己学習時間は本科目に関連するナースチャンネルの視聴、技術練習等に取り組む。

専門分野 I

【科目】 看護技術Ⅲ(食事・排泄) 【単位数・時間】 1 単位(30 時間)
 【担当講師】 後藤広行¹⁾ 小原 まゆみ²⁾ 永迫 里奈³⁾ 三島有里恵⁴⁾
 【開講時期】 第 1 学期 【配当年次】 1 年
 【所属・職位等】 1)専任教員 (看護師 16 年) 2) 専任教員 (看護師・助産師 20 年)
 3) 4) 看護師

【授業における到達目標】

生活する上でかかすことのできない日常生活援助(食事・排泄)のニーズを満たすための基本的援助技術を習得することができる。

【授業の概要】

日常生活に必要な食事・栄養に関する援助技術の基本的知識をもとに、演習を通して学ぶ。生活する上でかかすことのできない日常生活援助(食事・排泄)のニーズを満たすための基本的援助技術を学ぶ。また、排泄のメカニズムや排泄の援助を受ける対象者の倫理的態度、排泄の援助の実際を講義やグループワーク、演習で学ぶ授業である。

【アクティブ・ラーニング】

- ・グループワークを行い、発表・検討会を行う。
- ・授業においては、自らの考えを発言する機会が多くする。

【授業計画】

回数	内容(方法)		
第 1 回	食事	食事・栄養の意義と食事に関する生理学的メカニズム(講義)	後藤
第 2 回		食事に関係する身体の機能と栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントと評価(講義)	後藤
第 3 回		摂食・嚥下訓練、食事・栄養に関する援助(講義)	後藤
第 4 回		食事・栄養に関する援助の実際(食事介助)(演習)	後藤
第 5 回		非経口的栄養摂取の援助(講義)	後藤
第 6 回	排泄	1. 自然排尿・排便の基礎知識 2. 排泄のメカニズム 3. 排泄の援助を受ける対象者の倫理的配慮	小原
第 7 回		4. 排泄に関する観察とアセスメント 5. 自然排泄を阻害する要因とその援助	小原
第 8 回		6. 自然排尿・排便を促す援助 7. 排泄・トイレの歴史	小原
第 9 回		8. 排泄の援助、自然排尿を促す援助の実際	小原・永迫・

回数	内容（方法）		
		技術演習（床上排泄の援助）尿器を使った援助	三島
第 10 回		9. 排泄の援助 自然排便を促す援助；便秘	小原
第 11 回		10. 排泄障害のある患者への援助 排便障害への援助、尿失禁・便失禁	小原
第 12 回		床上排泄技術チェック	小原・永迫・ 三島
第 13 回		11. 排泄障害のある患者への援助 浣腸の知識と実際	小原
第 14 回		12. 排泄障害のある患者への援助 排尿障害への援助 尿閉	小原
第 15 回		13. 排泄障害のある患者への援助 排尿障害への援助の実際 導尿	小原・永迫・ 三島

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションおよび演習の前後にはレポート課題を提示する。

【評価方法】

筆記試験（配点：100点）のうち食事については課題レポートも含んで35点

排泄は65点のうち終了試験80% 小テスト、課題レポート20%

排泄介助の技術チェックは、合格をもって単位履修とする。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

【参考文献】

看護技術プラクティス第3版（学研メディカル秀潤社）

【授業外における学修方法及び時間】

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

ナーシングチャンネルの視聴（60分）

専門分野 I

【科目】看護技術IV（感染防止の技術・学習支援）【単位数・時間】1単位(30時間)

【担当講師】福丸 和也¹⁾、後藤 広行²⁾ 小原 まゆみ³⁾

【開講時期】第1～2学期【配当年次】1年

【所属・職位等】1)副看護師長、感染制御部副部長 感染管理認定看護師

2)専任教員（看護師16年）3)専任教員（看護師・助産師20年）

【授業における到達目標】

1. 看護の質を保証する技術（感染防止・学習支援）を学ぶ。
2. 感染防止の必要性を理解し、感染を予防するための知識・技術を習得することができる。
3. 看護における学習支援の目的と意義を理解し、様々な対象・状況に応じた学習支援の在り方を学ぶ。

【授業の概要】

感染防止の知識・技術を講義・演習で学ぶ授業である。また、学習支援の対象、学習支援の方法、内容について、講義、グループワーク、演習で学ぶ授業である。

【アクティブ・ラーニング】

演習や技術練習時は、根拠や評価基準に則り、学生同士協働しながら、技術を習得できるようにする。講義では、自らの考えを発言する機会を多くする。

学習支援の対象に望むゴールや願いをグループワークで検討し、発表・意見交換会を行う。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第1回	感染防止の技術 1.感染防止の基礎知識 1)感染成立の条件 2)院内感染の防止	福丸
第2回	2.標準予防策(スタンダード・プリコーション) 1)手指衛生 (1)手指衛生の種類 (2)衛生的な手洗い 3.個人防護用具(PPE) (1)防護用具の着脱方法	福丸
第3回	4.感染経路別予防策 1)接触予防策 2)飛沫予防策 3)空気予防策 5.洗浄・消毒・滅菌 1)洗浄 2)消毒と滅菌	福丸
第4回	6.無菌操作 1)無菌操作の実際 (1)滅菌パックの開封 (2)滅菌包装の開き方 (3)滅菌物の取り出し方(鑷子・綿球)	福丸

回数	内容・方法	備考
	(4)滅菌手袋の着用 7.感染性廃棄物の取り扱い 8.針刺し防止策	
第5・6回	演習 1)衛生学的手洗い 2)滅菌バックの開封 3)滅菌包装の開き方 4)滅菌物の取り出し方(鑷子・綿球) 5)滅菌手袋の着用	福丸、後藤
第7回	技術チェック	福丸、後藤
第8回	学習支援 1.看護における学習支援 1)セルフケアの概念と教育 2)健康教育と看護の役割 3)学習ニーズと学習支援の方向性	小原
第9回	2. 学習支援の対象と領域 1)学習支援の対象者 2)学習支援の場 3. 学習支援の進め方 1)学習内容 2)学習支援方法 4. 学習支援におけるアプローチの方法 1)個人へのアプローチ 2)集団へのアプローチ 3)学習支援のプロセスに影響を及ぼす要因	小原
第10回	5.学習支援計画 1)学習支援案・支援計画について 2)学習支援計画立案の実際(演習)	小原
第11回	6.学習支援の実際 1)学習支援の実際(演習)	小原
第12回	7.学習支援の評価 1)学習支援評価の視点 2)評価の活用(演習)	小原

【試験・課題等の内容】

筆記試験

技術チェック（感染防止の技術）：衛生学的手洗い・滅菌包装の開き方・滅菌物の取り出し方（鑷子・綿球）・滅菌手袋の装着

グループディスカッションおよび演習の前後にはレポート課題を提示する。（学習支援）

【評価方法】

授業・演習への参加状況

科目終了時客観試験

随時・終講時レポート評価（学習支援）

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 (医学書院)
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)

【参考文献】

看護技術プラクティス 第3版 学研メディカル秀潤社

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴 (60分)

解剖生理学・微生物学・病理学Ⅰ・薬理学・看護技術Ⅰ(環境)等と関連付けながら学習する。

専門分野 I

【科目】看護技術V（コミュニケーション、フィジカルアセスメント、看護過程）
【単位数・時間】2単位（60時間）
【担当講師】外村由美子¹⁾、間宮みどり²⁾、草原麻紀³⁾、河野トモ子⁴⁾、白坂篤子⁴⁾
【開講時期】通年 【配当年次】1年
【所属・職位等】1) 専任教員（看護師15年） 2) 専任教員（看護師12年）
3) 専任教員（看護師11年） 4) 看護師

【授業における到達目標】

対象を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な技術であるコミュニケーション、フィジカルアセスメント、看護過程展開について修得する。

【授業の概要】

コミュニケーションでは、「人間関係論」や「心理学」における学びを土台に、医療者としてのコミュニケーションにおける基本的知識および態度について学習する。

フィジカルアセスメントでは、バイタルサインの測定およびフィジカルイグザミネーションによる観察や測定技術を習得し、根拠に基づいた具体的なアセスメントの過程を講義・演習を通して理解する。

看護過程展開では、推論について学び、看護における問題解決のために理論的な知識を用いて看護を展開する方法を学習する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義・課題については自ら思考する機会とする。
- ・演習においては、事前に視聴覚教材で学習し、教員の示すロールプレイングにより、根拠に基づいた具体的な方法を理解する。
- ・看護技術の習得にあたっては、学生同士で学び合い、事例に応じた看護技術の方法を習得する。

【授業計画】

回数	内容・方法	担当
第1回	コミュニケーションの概念 医療におけるコミュニケーションの意義・目的 コミュニケーションの構成要素	外村
第2回	コミュニケーションに影響を及ぼす因子	
第3回	効果的なコミュニケーションの技術	

	コミュニケーション障害がある人への対応		
第4回	コミュニケーション技術向上のための方法		
第5回	ヘルスアセスメント及びフィジカルアセスメントの目的 (講義) 観察の視点と内容、観察の方法 (講義)	間宮	
第6回	問診、視診、触診、打診、聴診のポイント (演習)		
第7回	バイタルサインの測定 (演習)		
第8回	バイタルサインの測定 (グループディスカッション、S Pを活用したロールプレイ)		
第9回	呼吸器のアセスメント (演習)		
第10回	循環器のアセスメント (演習)		
第11回	バイタルサインの測定 (技術チェック)		
第12回	消化機能のアセスメント (演習)		
第13回	感覚機能のアセスメント (演習)		
第14回	運動機能のアセスメント (演習)		
第15回	脳神経機能のアセスメント (演習)		
第16回	看護過程の意義、看護過程と看護 看護過程の構成と看護理論		草原
第17回	推論について		
第18回～ 第20回	ロイ適応看護モデルに基づく看護過程展開 情報収集、行動のアセスメント (生理的適応様式)		
第21回 第22回	行動のアセスメント (自己概念様式、役割機能様式、相互依存様式)		
第23回	関連図		
第24回 第25回	刺激のアセスメントと看護診断		
第26回	看護目標設定と看護計画立案		
第27回 第28回	看護介入の実際		
第29回	評価		
第30回	終了試験		

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

<コミュニケーション> 終了試験 100%

<フィジカルアセスメント> 終了試験 80% (60 点)、小テスト・課題レポート 20% (15 点)

* 技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。

技術チェックの合格をもって単位認定とする。

<看護過程展開> 課題・レポート評価 100%

【テキスト】

<コミュニケーション>

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院

<フィジカルアセスメント>

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院

看護技術プラクティス 学研

からだの地図帳 講談社

<看護過程展開>

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院)

ロイ適応モデルによる看護実践ガイドー診断・介入・評価ー (メジカルフレンド)

看護診断ハンドブック 第 11 版 (医学書院)

【参考文献】

<フィジカルアセスメント>

フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

<コミュニケーション><看護過程展開>

毎回 1 時間程度の事前学習を要する。

<フィジカルアセスメント>

事前学習の 11 時間は 15 時間の自己学習時間は本科目に関連するナーシングチャンネルの視聴、技術練習などに取り組む。

専門分野 I

【科目】看護技術VI【単位数・時間】1単位 30時間
【担当講師】船木 見奈子¹⁾ 馬場美里²⁾ 永田志帆²⁾ 外村由美子¹⁾ 作元 辰也³⁾
【開講時期】通年 【配当年次】2年
【所属・職位等】1) 専任教員(看護師11年) 2) 看護師 3) 臨床工学士

【授業における到達目標】

1. 検査の意義、目的、種類や安全・安楽に実施するために看護師の役割について理解する
2. モデル人形を用いて真空採血管による静脈血採血の技術を習得する
3. 呼吸管理に必要な看護技術を身につける
4. 一時的吸引の技術を習得する
5. ME 機器の原理や取り扱い、管理の知識を習得する。
6. 穿刺・洗浄の介助に必要な看護技術を理解する

【授業の概要】

1. 検査の意義や目的、看護師の役割について静脈血採血の技術について、教授する
2. 酸素吸入や気道内加湿法、排痰ケアによる呼吸管理についての技術を講義、演習をとおして教授する。
3. 臨床現場で使用頻度の高いME機器を取り上げ、目的や原理や安全対策について教授する
4. 穿刺・洗浄する際の、診療の補助技術や対象者への影響を教授する

【アクティブ・ラーニング】

講義では、自らの考えを発言する機会を多くする

演習時は、根拠や評価基準に則り、学生同士協働しながら、技術を習得できるようにする

【授業計画】

回数	内容(方法)	担当
第1回	生体検査の目的、種類、看護師の役割	船木
第2回	検体検査の目的、種類、看護師の役割	
第3回	モデル人形を用いた真空採血管による静脈血採血(演習)	
第4回	モデル人形を用いた真空採血管による静脈血採血の技術チェック	
第5回	検査時の看護(演習)	
第6回	酸素吸入療法、気道内加湿法	外村
第7回	胸腔ドレナージ 気道内分泌の排出の援助	
第8回	一時的吸引法の実際(演習) 気道内加湿法の実際(演習)	
第9回	一時的吸引技術試験	
第10回	医療機器を安全に使用する環境	作元
第11回	測定用医療機器の原理、目的、保守点検	
第12回	治療用医療機器の原理、目的、保守点検	
第13回	胸腔穿刺の援助の知識、援助の実際 胸腔ドレナージを受ける対象の援助の実際	船木
第14回	腹腔穿刺、腰椎穿刺の援助の知識、援助の実際	
第15回	骨髄穿刺の援助の知識、援助の実際 胃洗浄の援助の知識、援助の実際	

【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する

終了試験は授業で教授した内容から出題する

〈検査時の看護〉

モデル人形を用いた真空採血管による静脈血採血

〈呼吸の管理に必要な看護技術〉

モデル人形を用いた一時的吸引

【評価方法】

評価は、筆記試験と技術試験を総合して判定する

技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。

不合格の場合は再技術チェックを行い、年度内に合格する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院

看護技術プラクティス 学研

【参考文献】

根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術

看護技術ベーシックス 医学芸術新社

【授業外における学修方法及び時間】

〈検査時の看護〉

1. 術習得のための学生同士の技術練習及びシミュレーターを活用したタスクトレーニングに取り組む。技術練習は、教員が指導可能な日を明示し、技術習得を目指す。
2. ナーシングチャンネル 基礎看護技術マスターシリーズ：血液の検査と静脈血採血
3. ナーシングチャンネル 看護師が行う静脈注射：採血

〈呼吸の管理に必要な看護技術〉

1. 術習得のための学生同士の技術練習及びシミュレーターを活用したタスクトレーニングに取り組む。技術練習は、教員が指導可能な日を明示し、技術習得を目指す。
2. ナーシングチャンネル 【看護実践能力向上シリーズ】映像で理解する吸引技術、【看護実践能力向上シリーズ】医療事故を防ぐ人工呼吸ケア

〈ME 機器を用いる患者の看護〉

1. 使用頻度の高いME 機器に関する安全対策や原理を深めるための学習

〈穿刺・洗浄〉

1. ナーシングチャンネル 穿刺と看護

専門分野 I

【科目】看護技術Ⅶ 【単位数・時間】1 単位 30 時間
【担当講師】船木 見奈子¹⁾・松蘭 泉²⁾・小川真梨子²⁾
【開講時期】通年 【配当年次】2 年
【所属・職位等】1) 専任教員（看護師 11 年） 2) 看護師

【授業における到達目標】

1. 薬物療法の目的、方法、看護師の役割について理解できる
2. 輸液療法の目的、方法、看護師の役割について理解できる
3. モデル用いて、筋肉内注射、点滴静脈内注射の一連の動作の看護技術を習得する
4. 創傷処置に伴う看護技術について理解する
5. 褥瘡予防の看護技術について理解する
6. 包帯法の技術を習得する

【授業の概要】

薬物療法、輸液療法、創傷管理、褥瘡予防、包帯法についての看護技術を講義、演習ととして教授する。

【アクティブ・ラーニング】

演習時は、根拠や評価基準に則り、学生同士協働しながら、技術を習得できるようにする。講義では、自らの考えを発言する機会を多くする。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第 1 回	薬物療法の理解、看護師の役割、患者への援助、経口与薬法、口腔内与薬法の援助の実際
第 2 回	外用薬の与薬の援助の実際
第 3 回	注射法の基礎知識とその援助、看護師の役割 ①皮下注射②皮内注射③筋肉内注射
第 4 回	筋肉内注射の技術演習
第 5 回	筋肉内注射の技術チェック
第 6 回	注射法 ①静脈内注射②点滴静脈内注射③中心静脈内注射
第 7 回	点滴静脈内注射の技術演習
第 8 回	
第 9 回	点滴静脈内注射のチェック
第 10 回	持続点滴中の患者の看護（演習）
第 11 回	
第 12 回	輸血療法
第 13 回	創の治癒過程、創傷処置の目的、方法、管理、包帯法の目的、方法
第 14 回	褥瘡の発生のメカニズム、褥瘡予防、褥瘡の評価と処置
第 15 回	包帯法、創傷管理（演習）

【試験・課題等の内容】

モデル人を用いた筋肉内注射、点滴静脈内注射
適宜、事前課題を要する
終了試験は授業で教授した内容から出題する

【評価方法】

評価は、筆記試験と技術試験を総合して判定する（80 点）。
技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。
不合格の場合は再技術チェックを行い、年度内に合格する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護技術プラクティス 学研

【参考文献】

根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院
新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社
看護技術ベーシックス 医学芸術新社

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術
看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術
統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論

【授業外における学修方法及び時間】

1. 術習得のための学生同士の技術練習及びシミュレーターを活用したタスクトレーニングに取り組む。技術練習は、教員が指導可能な日を明示し、技術習得を目指す。
2. ナーシングチャンネル 与薬、看護師が行う静脈注射
3. ナーシングチャンネル 看護実践能力向上シリーズ 与薬
4. ナーシングチャンネル 人体の構造と機能 第4巻 皮膚と粘膜

専門分野 I

【科目】臨床看護総論 【単位数・時間】1単位(30時間)
 【担当講師】①間宮 みどり ②船木 見奈子 【開講時期】 通年 【配当年次】 1年
 【所属・配属等】 ①②専任教員

【授業における到達目標】

1. 各経過期の概念と患者の特徴を理解し、各経過期に応じた必要な看護について理解する。
2. 主な症状のメカニズムと患者の特徴をふまえた看護について理解する。
3. 治療を受ける患者の特徴を理解し、看護目標と援助方法について理解する。
4. 手術療法や化学療法、放射線療法による有害事象のメカニズムと患者の特徴をふまえた看護について理解する。

【授業の概要】

解剖生理や疾患の理解をふまえ、疾患により各経過期をたどる患者の特徴及び看護について理解できるよう教授する。また、各疾患によって生じる症状のメカニズムと必要な看護について享受し、主な治療として手術療法、放射線療法、化学療法について学び、患者の特徴と必要な看護について教授する。

【アクティブラーニング】

グループワークや授業中の発問や討議により自ら思考する機会とする。

【授業計画】

回数		内容（方法）	講義 担当者
1回目	経過期に応じた看護	健康状態の維持・増進を目指す看護 健康状態の経過に基づく看護	間宮
2回目		急性期における看護	
3回目		慢性期における看護	
4回目		リハビリテーション期における看護	
5回目		終末期における看護	
6回目	症状に応じた看護	呼吸困難のある患者の看護	間宮
7回目		循環障害、浮腫のある患者の看護	
8回目		発熱、脱水のある患者の看護	
9回目		吐き気・嘔吐のある患者の看護 排泄障害のある患者の看護	
10回目		認知機能・知覚機能障害のある患者の看護	
11回目		痛みのある患者の看護	
12回目	治療を受ける患者の看護	手術療法を受ける患者の看護	船木
13回目		放射線療法を受ける患者の看護	
14回目		化学療法を受ける患者の看護	
15回目			
16回目		終了試験	

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

【評価方法】

筆記試験（配点：100点）

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 基礎看護学[4], 医学書院
看護過程に沿った対症看護 第4版, 学研
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学, 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】 ※15時間

15時間の自己学習時間は、本科目に関連するナーシングチャンネルの視聴、講義前後の課題に取り組む。

専門分野 I

【科目】基礎看護学実習 I	【単位数・時間】1 単位（4 5 時間）	
【担当講師】間宮 みどり	【開講時期】6 月、1 月	【配当年次】1 年
【所属・職位等】専任教員（看護師 12 年）		

【授業における到達目標】

<基礎看護学実習 I：見学実習>

1. 患者の入院生活の実際を知る。
2. 看護活動の実際を知る。
3. 患者との接し方の基本を学ぶ。

<基礎看護学実習 I：日常生活援助実習>

1. 受け持ち患者の日常生活行動について把握し、必要としている援助が実施できる。
2. 受け持ち患者とコミュニケーションをとりながら良好な人間関係を保つことができる。
3. 患者を取り巻く保健・医療チームについて理解し、責任ある行動がとれる。

【授業の概要】

見学実習では、患者の生活している病床環境を理解し、看護活動の実際を学ぶ。また、患者とのコミュニケーションを通して、家とは違う場所で生活している患者の気持ちを理解し、相手を尊重した言葉遣いや態度を考え、行動することを学ぶ。

日常生活援助実習では、受け持ち患者を 1 名担当し、健康障害によって生じる日常生活の変化を明らかにし、患者のニーズに応じた日常生活援助を実践する。

【実習期間】

<基礎看護学実習 I：見学実習>

2019 年 6 月 5 日（水）のうち、7.5 時間

<基礎看護学実習 I：日常生活援助実習>

2019 年 1 月 14 日（火）～2019 年 1 月 24 日（金）のうち、37.5 時間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター

【授業計画】

詳細は、基礎看護学実習 I 要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100 点）

【実習外における学修方法及び時間】

1. 実習要綱に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習
3. その他、事前課題として提示したもの

専門分野 I

【科目】基礎看護学実習Ⅱ

【単位数・時間】2 単位(90 時間)

【開講時期】7 月

【配当年次】2 年

【担当講師】草原 麻紀

【所属・職位等】専任教員

【授業における到達目標】

1. 受け持ち患者のアセスメントができる。
2. 受け持ち患者の看護問題を明確にできる。
3. 看護計画を立案できる。
4. 患者の状態に応じた援助を実施できる。
5. 実施した看護の評価ができる。
6. 受け持ち患者との関わりから自己洞察できる。
7. 看護チームの一員であることを自覚し、看護者として責任ある行動がとれる。

【授業の概要】

基礎看護学実習Ⅱでは、受け持ち患者を1名担当し、看護過程の思考過程を用いて対象を理解し、必要な看護を実践する。

【実習期間】

2019年7月8日～2019年7月26日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター

【授業計画】

詳細は、基礎看護学実習Ⅱ 要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習